

授業改善書

科目名	日本文学史概論（近現代）
担当者	掛野剛史

授業の概要

明治維新前後から、1960年あたりまでの日本文学の流れをたどり、この時期の文学の歴史を講義していく。最低限の文学史の知識を身につけることが第一目標であるが、そのためには、文学史と密接に関わる日本近代史の知識も必要であり、また、自ら多くの文学表現に直接接触し、実感することも必要である。授業時間外の各自の自習によってそれらを補うことが望ましい。授業では3～4つの課題作品を指定するのでそれを読むこと。その内容を小テストによって確認する。この小テストは4回行う。

以上、シラバスより引用。

授業の問題点

履修者 87名、回答者 52名

I 授業内容について

- ・授業内容に興味や関心を持ちましたか→4. 52
- ・シラバスに提示されていた内容、進度と一致していましたか→4. 52
- ・テキストなどの資料は適切でしたか→4. 67

II 授業方法について

- ・教員の説明はわかりやすかったですか→4. 60
- ・毎回の授業でテーマは明確に示されましたか→4. 75
- ・90分の授業を適切・有効に使っていましたか→4. 69
- ・学生からの質問などにきちんと対応しましたか→4. 56
- ・授業を円滑に進めるための配慮はなされていましたか(私語・携帯電話への注意など)→4. 50

以上の結果から、内容、方法についても一定の評価を受けているものと判断できる。

学生の授業満足度

履修者 87名、回答者 52名

- ・授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか→4. 60
- ・全体的に振り返って、授業に満足できましたか→4. 56

以上の結果から、おおむね満足度は高いものと思われる。

授業改善の課題と方策

ある程度の形ができており、学生からの評価満足度も高い授業となっていると考えられる。

その他

特になし。